

活動テーマ

東秩父村の観光・地域資源の再発見と発信

東秩父村全域 城西大学

### 1 活動目的

消滅可能性自治体に選出された東秩父村の魅力を、学生の視点で発見・発信し、認知度を高めて人の往来を促すことを目的とする。

活動のきっかけは、城西大学経営学部三國ゼミの卒業生が東秩父村で和紙職人になったことで、ゼミ内に「東秩父村を盛り上げよう」という機運が生まれたことである。加えて、昨年度に東秩父村と城西大学の相互連携に関する基本協定が締結され、大学としても連携を深める背景があった。

また、「デザイン思考を用いて地域課題に取り組む」というゼミのテーマを、東秩父村を舞台に実践することも活動目的の一つであった。

### 2 活動地域の現状

東秩父村は埼玉県西部に位置する県内唯一の村であり、面積は約 37.06 平方キロメートルである。人口は 1965 年の 5,346 人から減少を続け、2021 年 12 月には 2,642 人、2025 年 2 月 1 日時点では 2,375 人となっている。出生数も減少傾向にあり、2023 年は 2 人であった。

主要産業は製造業などの商工業であり、豊かな自然や「和紙の里」を活かした観光振興も進められている。一方で、若年層の就労機会不足や公共交通の不便さを背景として、人口減少と高齢化が進行している。

地域では和紙文化に関する催しや観光拠点の整備が進み、日帰り観光客で賑わう一方で、高齢者のみの世帯の増加により、集落の相互扶助など地域コミュニティの維持が課題となっている。

### 3 活動内容

2024 年度からの継続した活動（②③⑤⑥）と、2025 年度に始めた活動（①④⑦）がある。

#### ①2025 年度城西大学公開講座における発表

2025 年度城西大学公開講座では、東秩父村を対象とした「ふるさと支援隊」の活動について発表を行った。活動の目的、これまでの実践内容、学生の学びや地域との関わりを整理し、学内外の参加者に共有した点に意義があった。公開の場で説明することで、活動内容を客観的に見直す機会となり、今後の改善点や発展可能性を明確にする契機にもなった。



#### ②「東秩父村通信」の継続発行

「東秩父村通信」は、学生が東秩父村の魅力や活動内容を分かりやすく伝えることを目

的として継続発行した。取材、原稿作成、写真選定、編集を学生が担い、地域資源やイベント、学生活動の様子を発信した点に特徴がある。継続的に発行することで、情報発信の力が高まるとともに、村の魅力を学生自身が再確認する学びの機会にもなった。

### ③農作業（稲刈り）への参加

農作業体験として稲刈りに参加し、東秩父村の暮らしや一次産業への理解を深めた。学生は実際に手を動かしながら作業の大変さや季節ごとの営みを体感し、地域の生活基盤を支える仕事への関心を高めた。観光的な魅力だけでなく、地域の日常や労働の価値を学ぶ機会となり、今後の発信内容に具体性を持たせる上でも有意義な活動であった。



### ④高麗祭への参加

高麗祭では、東秩父村の魅力を学内来場者に伝えることを目的に、ゼミとして企画・運営をした。展示や体験型企画を通して、和紙文化や地域資源を楽しく知ってもらう工夫を行った点に特徴がある。学生にとっては、来場者対応、広報、役割分担などを実践する機会となり、地域発信とイベント運営の両面を学ぶ貴重な経験となった。

#### 【和紙灯籠づくり体験】

和紙灯籠づくり体験では、東秩父村の和紙文化を身近に感じてもらうことを目的に、来場者参加型の企画を実施した。学生は材料準備や作り方の説明、制作補助を担当し、相手に分かりやすく伝える力を養った。体験を通して来場者の関心を引き出し、和紙の魅力や地域文化への理解を深める機会を提供できた点で、発信効果の高い企画であった。



#### 【東秩父村すごろく】

「東秩父村すごろく」は、遊びながら村の名所や文化、特産品を知ってもらうことを目的に企画した。学生は内容の検討、デザイン、説明方法の工夫を行い、来場者が参加しやすい形に整えた。子どもから大人まで楽しめる形式としたことで、地域情報を親しみやすく伝えることができた。学習要素と娯楽性を結びつけた発信方法として有効であった。



### ⑤地域連携活動報告会への参加

地域連携活動報告会では、東秩父村での実践内容と成果、課題を整理して報告した。活動の経過を共有することで、関係者との認識をそろえ、今後の連携の方向性を確認する機会となった。学生にとっては、自らの経験を言語化し、他者に伝える力を養う場でもあった。また、外部からの意見を受けることで、活動改善に向けた視点を獲得することができた。



## ⑥訪日外国人旅行者へのPR活動

浅草において、訪日外国人旅行者を対象に東秩父村のPR活動を実施した。学生は英語版パンフレットを用い、グループで声かけを行いながら村の魅力を紹介した。実践の中で、英語運用力だけでなく、表情やジェスチャーを含めた伝え方の工夫も求められ、実践的な学びにつながった。地域資源を自分の言葉で説明する経験として、教育的効果の高い活動であった。



## ⑦野球イベントの開催

野球イベントは、野球部に所属するゼミ生が中心となって、地域との交流を深めることを目的として企画・実施した活動である。学生は準備、運営、参加者対応を分担し、円滑な進行に努めた。スポーツを介した交流は、年齢層を超えて関係を築きやすく、地域連携の新たな入口として有効であった。単なる発信にとどまらず、実際に地域の人々と関わる機会をつくる実践として、今後の展開にもつながる内容であった。



# 4 成果

## ①地域への成果発信・理解醸成

大学での発表機会を活用し、活動の背景・目的・内容を整理して地域に共有した。学生が前面に立って伝えることで、地域課題への関心や共感を喚起し、継続的な応援基盤づくりにつながった。

## ②学生主体の情報発信体制の確立

取材→編集→発行までの一連のプロセスを学生が担い、地域の魅力を継続的に届ける仕組みを形成した。テーマ設定型の発行を重ね、次年度以降も続く「活動の柱」として定着させた。

## ③体験型コンテンツによる地域PR力の向上

「見せる」だけでなく「体験してもらおう」展示を設計し、来場者の理解と印象を深めた。地域資源（和紙等）を題材に、学園祭の場で交流を生み、地域の魅力を実感として伝える手法を蓄積した。

## ④海外向け発信・異文化コミュニケーションの実践

英語資料の作成と現地配布を通じて、訪日客に向けた情報発信を実践した。チームで目標を設定し、翻訳ツール等も活用しながら対話を成立させ、発信力と実践的なコミュニケーション力を高めた。

## ⑤地域住民との協働・交流機会の創出

農作業体験への参加により、地域の人々と同じ作業を行いながら交流する機会を確保した。加えて、子どもたちとの交流をスポーツ等で実現するための企画・調整を進め、継続的交流への道筋を作った。

## 5 課題

2024年の開始以降、4年生を中心とした主体的な活動により、東秩父村通信の発行や各種イベントを通じて、村の魅力を発見・発信する機会を得ることができた。一方で、活動継続に向けては課題も明確になってきた。以下では、主な課題を整理する。

### ①東秩父村の魅力について、もっと知る必要がある

発信の質を高めるには、まず学生自身が村の魅力を自分の言葉で語れることが重要である。そのためには、現地訪問を重ね、景観・食・文化・体験を実際に見聞きし、記録・整理する必要がある。あわせて、人口減少や交通、担い手不足などの地域課題にも目を向け、住民・事業者・行政の声を通じて背景やニーズを理解することが求められる。

### ②企業との連携等、情報発信方法のブラッシュアップの必要性

活動を広げるには、企業との連携強化と情報発信の質向上が必要である。SNSだけでは拡散に限界があるため、「誰に」「何を」「どんな行動につなげるか」を明確にし、SNS・動画・Web・紙媒体を目的に応じて使い分ける視点が重要となる。投稿デザインや運用ルールを整え、反応を見ながら改善を重ねることで、持続可能な発信体制を構築していく必要がある。

### ③就職活動と支援活動の両立の困難さ

就職活動期には予定が不規則になり、地域活動への参加が難しくなる。したがって、「全員が毎回参加する」前提ではなく、役割を柔軟に分ける体制が必要である。たとえば、現地対応とオンライン作業を分担し、共有フォルダやオンライン会議を活用して情報を管理することが有効である。また、参加しにくい時期に配慮できる雰囲気づくりと、成果物ベースで貢献を可視化する仕組みも重要である。

### ④4年生から3年生へ、どのように引き継いでいくか

活動継続には、経験やノウハウの属人化を防ぐことが不可欠である。連絡先、年間計画、打合せ記録、予算、広報素材などを「活動台帳」として整理し、誰でも参照できる状態にしておく必要がある。また、年度末の一度きりではなく、早い段階から3年生を副担当として参加させ、4年生とペアで実践しながら引き継ぐことが望ましい。振り返り資料やチェックリストを残すことで、次年度への移行を円滑にできる。

## 6 次年度以降の計画

2年間にわたり続けてきた活動と、新たな取り組みとを織り交ぜて、より深く東秩父村に関わり、その魅力を発掘していきたい。

【継続する活動】	【新たな活動（予定）】
①「東秩父村通信」の継続発行	①魅力PR動画／短編映画制作
②農作業（稲刈り・楮の皮むき）への参加	②カードゲームの開発
③訪日外国人旅行者へのPR活動	
④野球イベントの開催	
⑤地域連携活動報告会への参加	
⑥高麗祭への参加	